

# 第2回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

## 次 第

日時：平成27年9月26日（土）午後7時30分～

場所：生涯学習センターさくらドーム 21 視聴覚室

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題
  - (1) 専門部会による施策中間取りまとめ案について
  - (2) 推進会議委員提案取りまとめ結果について
- 4 その他
- 5 閉会

### 【配布資料】

資料1 専門部会による施策中間取りまとめ案

資料2 推進会議委員提案取りまとめ結果

# 宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略

## 専門部会による施策中間取りまとめ案

## 基本目標① 地方における安定した雇用を創出する

No.	施策名	施策内容	備考
1	町独自のブランド品の開発	宝達志水町内の農業生産品等のブランド化を目指し、また、PRを行うことで、事業での単価向上につなげ、産業の創出に資する。	
2	宝の土地活用推進事業	町内の方を新たに20人以上雇用する企業（できれば製造業）に対し、町内遊休地を30年を限度に無償貸与する。（1万㎡未満）	事業名にインパクトを持たせることで、PR効果の促進を狙う。 また、土地利用計画規制を考慮し、1万㎡未満を想定。
3	ベンチャーサークル支援事業	大都市圏のベンチャー企業に対し、町内に3年間以上在住する企業には、月1万円で賃貸借する（雇用促進住宅を買取）	新規起業支援の場合、起業経費に対する金融支援が必要なため、既に起業している企業を想定する。
4	農業の六次産業化の推進	イノシシ肉、養鶏場、自然栽培農産物の加工・販売の推進、研究・検討を推進する。	イノシシ肉の場合、羽咋市に加工場があることから、加工は羽咋市、販売は町内と、住み分けを行うことで、選択と集中を行い、競合を避ける。
5			

### （その他の意見・重要な施策等）

- ・雇用促進住宅を買取、活用する案が複数出ており、低層階をベンチャービジネス用にし、高層階を居住空間とする案があり、これにより、ベンチャービジネスの集積による企業間のビジネスマッチング・相乗効果を期待し、また、転入の受け皿確保を狙うもの。
- ・農林水産課職員から、耕作放棄地の解消は、非現実的との意見があった。
- ・JAアグリが買い取り事業をしているようだが、中山間地の耕作放棄地は買い取っていない。
- ・民間企業でも手を引いているところに、行政がコスト投入する是非は検討する必要があるのではないか。

## 基本目標② 地方への新しいひとの流れをつくる

No.	施策名	施策内容	備考
1	空き家バンク事業	空き家リストを作成し、希望者と所有者の仲介を行う。	
2	賃貸住宅誘致事業	賃貸住宅を経営する民間不動産業者に対し、遊休町有地をはじめとした町内の土地情報を積極的にPRするとともに、民間不動産業者が町内に新たに整備する賃貸住宅建築に対し、支援する。(補助金等の交付)	
3	健康なまちづくり事業	健康診査、食生活改善、運動しやすいまちづくり等の生活習慣病予防を目的とした施策を強化し、誰もが元気で充実した日々を過ごせるまちづくりを行う。	町全体が「健康である」という点に付加価値を見出す。(健康度合を具体的な数値をもってPRできるように要検討)
4	ダイヤモンドホテル跡地利用事業(例:体験型施設の整備等)	今浜地内の旧ダイヤモンドホテル跡地について、体験型施設整備等をはじめとした誘客促進に寄与する利活用方法を検討する。	民間企業の進出を促すなど、町が主体となるのではなく、民間の力を活用する方策を模索する。
5			

(その他の意見・重要な施策等)

- ・まずは定住ありきという観点から、「住まいの確保」を最重要施策として協議検討を行った。(住環境の確保→町の付加価値を高める)
- ・「通勤サポート事業」について、採用すべきか慎重に議論を重ねたが、対象者の範囲(町民全体?移住者のみ?町内に住居を新築した者?)の選定が困難であったため、満場一致での採用とはならず次点扱いとしている。

### 基本目標③ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

No.	施策名	施策内容	備考
1	若者居住区域整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンコーポラス（押水雇用促進住宅）を買い取り、リフォームを行い、40歳以下の若者世帯を対象とした賃貸住宅として活用する。</li> <li>・志雄中学校跡地を、民間不動産業者の建売住宅による若者向けの住宅街として活用する。</li> </ul>	
2	大きく成長お祝い事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年以上町内に居住しており、税の滞納が無い世帯の子どもに対し、成長に合わせた節目ごとに祝金を贈る。（6歳・5万円、12歳・10万円、15歳・15万円、18歳・20万円）</li> </ul>	
3	婚活支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館事業として婚活セミナー、婚活イベント（町内特産品食べ歩きスタンプラリー等）を実施する。</li> <li>・ご当地オリジナルデザインの婚姻届を作成する。</li> </ul>	
4	子供の遊び場整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業短大跡地、放牧場跡地等を活用し、大型遊具や芝生公園、マラソンコースなどを備えた公園を整備する。</li> </ul>	
5	教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語やIT関連の強化に特化した教育を推進する。</li> </ul>	

（その他の意見・重要な施策等）

## 基本目標④ 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

No.	施策名	施策内容	備考
1	コンパクトなまちづくり	山間部の高齢化が進み、限界集落となっていることから、平野部の居住環境を整備し、山間集落等から移住する高齢者に対し、移住費を助成することで、高齢化対策並びに過疎化対策につなげる	旧志雄中跡地に新病院を建設するが、その遊休地を活用し、住環境整備を行う。
2	特色ある医療施設の構築	建替えの決まった新志雄病院の機能強化、付属の施設を計画し、入院患者、家族、外来患者、職員、町民がくつろげるコミュニティ空間など、他にない特色ある医療施設を構築する。	上記事業案とセットにしてライフスタイルを提案することで、相乗効果を狙う。
3	集落間によるマッチング	少子高齢化が進む中山間集落を対象とし、交流を進める。これにより、地域行事・道路愛護等の応援派遣・農業体験・合宿や民泊・祭礼・伝統文化の継承を図る。	祭礼や伝統文化については、デジタルコンテンツ化して継承してはどうか。
4	古民家再生事業	古民家再生にかかる費用の一部を助成する。	専門部会の提案で、「マチナカ」魅力アップ事業の提案があり、マチナカ商店街に該当古民家があれば活用する。
5	G I H A S 世界農業遺産「能登の里山里海」の更なる活用と連携	G I H A S ネットワークを通じて町の農産物のPRを強化する。	基本目標①で掲げた「町独自のブランド品の開発」により、PR効果が促進されるため、ブランド化も強化する。

(その他の意見・重要な施策等)

- ・専門部会提案で、「町公式フェイスブックの創設」があったが、9月議会一般質問で運用する旨の回答をしていること、既に企画振興課でほっぴーさんアカウントで運用しているため、早期に運用すべきであることから、施策に掲げるまでもないとの意見が出された。
- ・公衆無線LANスポット整備についても必要性が提言された。5事業に収める都合上、取りまとめシートから漏れたが、可能であれば6位の事業として追加掲載したい。

# 宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略に盛り込む施策

## 推進会議委員提案取りまとめ結果

## 目 次

基本目標①	地方における安定した雇用を創出する . . . . .	1
基本目標②	地方への新しいひとの流れをつくる . . . . .	4
基本目標③	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる . . . . .	9
基本目標④	時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する . . . . .	14

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
地方における安定した雇用を創出する	企業誘致の促進	若者の定住できる企業誘致に町、商工会が一体となって力を入れる。
		現存企業に関連協力会社の誘致を働きかける。
	生産性の向上	農の一次産業化から脱却して、農地の年間有効利用と、組織による野菜類の大量栽培に切り替え、関連の加工・製造・販売の企業を呼び込む。
	農業の六次産業化	荒れた山林を整備して、山菜類の人工栽培を六次産業として立ち上げ、シニア層の働き場所を作る。
	雇用創出のための体制整備	都会の生活に飽きた若者が自然豊かな田舎へのUターンを求めている傾向にあるため、「雇用創出プロジェクトチーム」を設置し、専門職2名程度を充て対応する。
	雇用拡大の受け皿整備	後継者不足の農業（ルビーロマン、米、宝達葛等）の実態調査を行い、都会の若者のニーズに応えられるよう受け皿を整備し、移住定住希望者に提供できるような体制を整備する。
	企業誘致活動の推進	行政が持つアウトライン（企業誘致候補地等）を町民にも周知し、町民一人一人が宣伝マンとなる仕掛けを行う。また、本町の立地条件にふさわしい企業のリストアップし、会社訪問を実施してPRを行う。
	近隣市町との連携による雇用協力	本町から通勤可能な金沢市～七尾市までを広域的範囲として雇用対象とし、近隣市町及び企業との密接な連携を図るとともに、当該範囲の企業実態を把握する。（特に志賀町能登中核団地の人手不足の深刻化にあわせた連携強化を図る。）
	安定した人材の確保	安定した人材を確保するため、県内の学生約3万人（12校の担当者）を引き留めるため、交流を図り、定住に結び付ける。
新規就農／オムライス関連食材の企業誘致	<p>宝達山の伏流水は良質な飲料水を提供するだけでなく、水田2千㍓を潤す農業用水として役立っている。こうした恵まれた農業環境を活かして、移住者を含めた若者達の新規就農を促す。オムライスの郷構想をさらに純度化させ、米、トマトケチャップ、鶏卵、菜種油などをこの地で生産し、金沢や七尾、富山からオムライスを食べにやってくる「食客」を増やす。</p> <p>今回初めて「地域おこし協力隊」を採用し、コミュニティカフェの店長に抜擢しており、その店長のキャラを活かした、オムライスの郷のPR活動を行う。</p> <p><b>効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①新規就農者を全国公募することで、知名度のアップと移住者を増加する。</li> <li>②オムライス関連食材の企業誘致をすることで、雇用創出につながる。</li> <li>③農業者を増やすことで地元野菜が拡大し、休職の地元食材の自給率をアップする。</li> </ul>	

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
地方における安定した雇用を創出する	末森城整備による観光活性化	<p>末森城の整備とアピールを実施し、観光を活性化するとともに、末森城をモチーフとした地域特産物への展開、開発を促す。</p> <p><b>効果</b> ①観光による交流人口拡大と観光業や周辺産業への派生が期待される。  ②地域特産物への展開により、農業の6次産業化につながる可能性がある。  ③「末森城を巡り、オムライスを食べる」など町内滞留時間の延長が期待される。</p>
	農業体験型の観光	<p>宝達志水町の主要産業は農業であり、なぎさドライブウェイや宝達山などの観光資源も抱えていることから、農業従事者の収入を増やすとともに、観光資源と組み合わせる施策を検討する。（農産物（米、ブドウ、イチジク、モモ等）の品種を増やすとともに、都会から呼び込める農業体験型の観光を作る。）</p>
	企業誘致促進	<p>工場等の新設、移転に伴う奨励制度の紹介や未利用地情報の提供を行うことにより、企業誘致を推進し、産業の振興と雇用の安定を図る。</p> <p>(1) 工場等設置奨励制度  (2) 雇用奨励制度（本町に住所を有する従業員が新たに2人以上増加する場合）</p>
	企業誘致の推進	<p>企業が立地したいと思うような施策を考える。</p> <p>(例) どこにもないジャガイモを作って(株)カルビーに売り込む  トマトの品種改良を行い、(株)カゴメとコラボする  参天製薬と共同で宝達山を薬草の山にする</p>
	企業誘致策を策定	<p>工場新設に対し、補助金を出す。（一時金ではなく、1年目、2年目等の継続するもの）</p>
	企業誘致策を策定	<p>町在住者新規雇用に対し、雇用時に助成金を支給する。</p>
	交通利便性を活かした大企業誘致	<p>のと里山海道や能越自動車道の交通の利便性を活かすとともに、固定資産税の大幅な減額等による大企業の誘致を行う。</p>
	起業支援	<p>本町で起業を目指す方に税制や住居支援、空き家、土地などの情報を提供する。</p>
	企業誘致	<p>大企業を誘致し、若い人達に働く場を設ける。</p>
	自然資源を活用した創業・雇用創出	<p>都会の新規就農希望者の大半が無農薬を希望していること、農的暮らしを志向するサラリーマンが増えていること等により、自然栽培で新規就農を増やす。</p>
	<p>自然栽培農産物の加工・販売（6次産業化）。</p>	

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
地方における安定した雇用を創出する	自然資源を活用した創業・雇用創出	世界農業遺産とグリーンツーリズム、千里浜観光客の誘客を見込んだ農家民宿。
		能登定住促進機構によると、移住者の大半は創業しているため、地域創業サポート体制を強化する。
		農業と福祉の連携を図る。
		食品リサイクルの推進（生ごみ減量）。
		竹林整備と竹粉の資源利用推進。
		その他、農業だけでなく、林業、漁業との相乗効果を生み出せないか検討する。
	高卒就職の斡旋	大学に行かなくても就職ができ、就職中に資格取得できるシステムを構築し、県外への大学進学（人口流出）を防ぐ。
	テーマパーク建設	季節にあわせて事前を活かしたテーマパークを作る。

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
地方への新しいひとの流れをつくる	今浜ＩＣ・なぎさドライブウェイを核としたＰＲ	車の流れが「のと里山海道」へ移ったことで、能登の玄関口となる「インターチェンジ」と「なぎさドライブウェイ」を核として、町をＰＲするパーキングとアウトレットパークを創設し、町の存在を高める。
	宝達山への誘客	山頂からの眺望（能登の海、越中の山並み）、ブナ林、金山の歴史等、観光ＰＲに力を入れる。
		宝達山中腹にもパーキング及び見晴らし台を設け、山側広域農道を活性化させる。
		宝達山マラソンを復活させる。
	駅周辺整備	ＪＲ３駅周辺を拡大整備し、安価で便利な宅地供給を行い、ベッドタウンの一翼を担うとともに、道路に町の桜並木を整備し、景観を保つ。
	空き家バンク	将来使うことのない空き家および空き家となる建物を登録し、町が管理することで都会からの入居者を募る。
	のと里山海道ＩＣ等の改称	宝達志水町の玄関口である「のと里山海道」のＩＣ、ＰＡそれぞれの名称を「宝達志水町」が目立つものに改名する（①米出 → 宝達志水口 ②今浜 → 宝達志水中央 ③志雄ＰＡ → 宝達志水オムライスＰＡ）ことで、宝達志水町の知名度を上げる。
	志雄ＰＡ利用拡大	県が設置した「イベント広場」を活用し、簡単な催しやオムライス販売、地元農産物の販売等により、宝達志水町を発信する。
		志雄ＰＡから直接海水浴ができるよう利便性の改善を図るとともに、夕日を眺めるようなスポットを設置する。
のと里山海道における「第１号のコンビニ店」を誘致し、２４時間いつでも賑わうＰＡとする。		
季節限定オムグルメの開発	宝達山ドライブウェイ～金鉱山跡地～天井川～扇状地帯の地理的実態を確認～自然栽培へ現地視察～自然栽培の農作物を利用した「季節限定オムグルメの開発」にチャレンジし、オムグルメルートマップの作成等で案内する。	
「鐘の鳴る町」の発信	宝達山が金鉱山であったことにちなみ、「金（かね）＝鐘（かね）」に結び付けたもの。町内の寺院にある鐘を一斉に撞くことにより、宝達志水町の発信源の活力などにつなげる。	

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
地方への新しいひとの流れをつくる	「空き家」と「都会の高齢者の地方分散」とのマッチング	将来的に使用可能な「空き家のリストアップ」を行い、都会からの高齢者移住問題にいち早く取り組み、移住・定住対策を図ることで、高齢者だけでなく、その子や孫への将来的なつながりを作る。
	宝達高校の改組	<p>普通科から看護または介護系の課程（総合学科を一部含むでも可）への改組を県に働きかける。</p> <p><b>効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①宝達高校と県立看護大との連携プロジェクトが実施可能となり、地域活性化・地域間連携が期待される。</li> <li>②実学系の課程となることで、就職の安定が期待される。</li> <li>③地域の介護施設等に若い人材が供給されることで、職場環境の改善が期待される。</li> <li>④（将来的に産科で働く看護師が増えれば）公立羽咋病院での出産が可能となり、少子化対策に寄与できる可能性がある。</li> </ul>
	宝達山と千里浜なぎさドライブウェイを結びつけた動的ツーリズムの開発	<p>宝達山と千里浜なぎさドライブウェイは、石川県でも重要な観光資源でありながら、それを結びつける取り組みが目立たないため、標高637mの高低差を活かしたトレイルランニングやトライアスロンなど、同的なイベントを開催し、2つの観光名所を結びつける。</p> <p><b>効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①金沢から最も近い能登の最高峰を目指すスポーツツーリズムの創出。</li> <li>②インストラクターの要請を通じて、若者の雇用創出になる。</li> <li>③町民参加で、健康と体力の向上にも寄与する。</li> </ul>
	体験農業型による交流人口促進	（基本目標1の提案につながるが）体験型農業で、長期滞在する人が出てくれば、いずれ宝達志水町への移住者が期待されるとともに、定住しなくても交流が深まることにより、口伝えで人が来るとい流れが作れる。
	観光おもてなし整備事業	<p>地域資源を活かした観光ルートの提供や、新たな観光名所づくり、地域イベントや伝統行事等の実施、周辺観光地との連携によって、体験型・滞在型観光を企画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）道の駅などの観光交流拠点の機能強化と施設整備</li> <li>（2）飲食や体験・イベントの提供</li> <li>（3）広告やウェブの作成</li> <li>（4）旅行商品開発のための調査検討（業務委託）</li> </ul>

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
地方への新しいひとの流れをつくる	「移住定住」と「U・I・Jターン」促進事業	<p>本町への移住・定住を促進するため、ポータルサイトの整備、移住相談員による相談窓口の開設等によって、受け入れ態勢の整備と情報発信に努める。</p> <p>(1) 移住者向けの支援制度や大学進学 of 若者への奨学金制度を創設し、大学卒業後に町内で終了できる仕組みを構築する。</p> <p>(2) 古民家や中古住宅等に対する住宅ローンの創設</p>
	県外からの高校入学者の受け入れ事業	宝達高校への県外からの入学制の受け入れを可能とするため、奨学金や寮の整備、序情報発信に努める。
	移住者対策	<p>都会に住む四割の人が第二の人生は地方に住みたい（農業新聞調べ）と希望しているので、本町にある高齢者用施設や新築する療養型の病院などをPRするとともに、空き家の整備や住宅を整え、家庭菜園が出来るような農地を提供するようサポートする。</p>
	情報発信の工夫	<p>金沢への通勤圏内であること、地価が安い、環境が良い等、住みよい町であることをアピールする方法を、ホームページを見やすく関心が持てるよう分かりやすくする、看板の設置、テレビCMなどの手法により工夫する。</p>
	住宅情報の発信	<p>土地、空き家、空きアパート等の住宅情報を、町ホームページにより外部発信する。常に更新し、分かりやすく目につきやすい情報にする。</p>
	宅地開発	J R 3 駅周辺、のと里山海道 I C 付近、山側道路沿いに宅地開発を行う。
	婚活イベントの開催	町内在住者及び移転予定者を対象とした婚活イベントを開催する。
	学校の誘致	大学・専門学校を誘致する。
	学生への意識付け	<p>地元や金券の大学・専門学校等と積極的に連携し、地元に戻るよう意識付けをさせる。（町内での就職、移住を条件に奨学金の一部を町が負担する等）</p>
	就労環境整備	<p>若者（10代）がいったん流出することを前提とした、20代前半から30代までの世代が就労できる環境を整える。</p>
のと里山海道 I C 周辺における定住促進策	<p>のと里山海道の無償化により、金沢北部が通勤圏内となったため、今浜、米出、千里浜 I C 付近での定住促進策を行う。</p>	

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
地方への新しいひとの流れをつくる	安心で快適なまちづくり	高齢化が進んでいるが、町全体が若返っていくのが理想的。「住んでよし、働いてよし、訪ねてよし」の町をめざすため、「この町にかなければ無い！」というものが必要。
	里山里海ラインの整備	千里浜なぎさドライブウェイから宝達山山頂まで車で20分で行ける道路「里山里海ライン」を整備する。（わかりやすい誘導標識の設置、道路沿いのライトアップ、旗を立てる、道路のネーミングを伝わりやすくする等）
	山の龍宮城の充実	展望テラスが整備されるなど、ハード面では充実してきているので、ソフト面をさらに充実させるために観光ボランティアスタッフを増やす。
		山の龍宮城にオムライスカフェを併設し、宝達山からの眺望とオムライスを合体させる。
	移住促進	移住相談、サポートの体制強化
		移住促進サイトの制作（空き家バンク）
		お試し移住の仕組みづくり
		新規就農者のサポート体制強化（羽咋市の烏帽子制など）
		定年帰農の受け皿（JAはくい自然栽培塾→地域で就農）
	観光産業推進	グリーンツーリズム、エコツーリズム
町の魅力を伝える youtube 動画制作		
町外在住者へ就職情報を提供・斡旋	高額の就職情報等があり、条件があれば帰ってきたくなる。	
町PR（人柄の良さ等）	良い人が多いということや、自然を利用した事業を始めるようPRする。	

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
地方への新しいひとの流れをつくる	ふるさと納税の拡充	ふるさと納税で、インターネットでも寄付が出来るよう整備し、寄付者には、町内の観光施設や飲食店での料金を割引するなど、宝達志水町に足を運んでくれるよう工夫する。
	宿泊施設の整備	キャンプ場等、気軽に利用できる宿泊施設を造り、町に足を運んでもらう。
	自然を活かしたアクティビティの整備	自然を活かしたアクティビティ（アスレチックなど）で、親子連れで訪れたい土地にする。
	公園の整備	交通の便の良いところ（国道沿い、駅周辺、商業施設の隣）に公園を作る。
	町内行事を活用した町のPR	町内の行事として町外の人が多く訪れる行事（例：YOSAKOI ソーラン日本海本祭等）で、町の良さや特徴、イベントなどを告知し、町外から訪れた人にPRする。

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	交流イベントの支援	若い世代の男女（青年会、女性の会）が定期的に自主開催できる交流イベントを、町全体が後押しする。
	保育所以外での子育て支援	保育所以外にも、元気な高齢者が集まる場所（例：宝寿荘等）に経験豊富なベビーシッターを併設して、若い働き手が安心して働ける環境をつくる。
	核家族化への対策	昔のように2、3子を家族で育てる親子3代の家族構成をめざし、核家族化の流れをとめる方策を町ぐるみで考える。
	結婚相談所窓口の開設	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 窓口を役場内に設置し、1名の係員を充てる。</li> <li>(2) 「結婚アドバイザー」を町民から数名公募し、適格者には町長が委嘱する。</li> <li>(3) 町内の「結婚希望者登録制度」を設置する。</li> <li>(4) いしかわ子育て支援財団の「縁結びIST」への登録を希望する「結婚アドバイザー」には、登録していただき、財団からの「結婚希望者情報」を収集し、町係員と二人三脚で活動する。</li> <li>(5) 「結婚希望者情報」は直接財団で閲覧するため、交通費が負担となる。</li> <li>(6) 結婚アドバイザー1名につき、年間1組の結婚成立を目指す。</li> </ul>
	結婚による移住支援	町外の人との結婚が成立した場合には、雇用関係の問題が生じるので、「移住と就職」をセットで支援できるような体制を確立する必要がある。
	子育て環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 子育てと雇用が両立できるまちづくり</li> <li>(2) 子供は、急に熱を出すことが多く、特に土日祝日の当番医が小児科でなかったり、午前中だけの診療時間となっていたりすることで安心した子育てが出来ないため、改善する。</li> </ul>
	太鼓講習会による地域交流の活性化	地域の人々が交流する機械を増やすため、秋祭り前の夏休み期間中の学校登校日を利用して、太鼓講習会を取り入れ、秋祭りにおいて地区行事を盛り上げ、区民の人々と交流を図る機会を設けることにより、郷土愛を育む。
	宝達山系を活用した「森のようちえん」の開設	<p>子供が外遊びをする機会が減っていることから、従来の幼稚園ではなく、自然体験活動を行う「ようちえん（園舎がない、玩具がない、日課がない）」を開設し、子供たちを里山で自由に遊ばせる。</p> <p><b>効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①子供の気づきを大切にしたプログラムとすることで、危険に対して見分けがつく、自分で遊びを工夫する、自然を楽しみと思うようになる。</li> <li>②教育の選択肢としての「子育て移住」が増える。（※鳥取県智頭町の事例）</li> <li>③NPO等が定期的にイベント開催することで、近隣市町のリピーターが増加する。</li> </ul>

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	子ども連れの家族が集う施設（公園）の設置	<p>町内に子供を遊ばせる施設が存在しないため、アンデルセン公園（千葉県舟橋市）や刈谷ハイウェイオアシス（愛知県刈谷市）のような施設を設置する。</p> <p><b>効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①子育て環境が改善され、少子化対策が期待される。</li> <li>②町民以外からの利用により、交流人口の増大が期待される。</li> <li>③帰省者にも喜ばれる施設となり、将来的なUターンの増加が期待される。</li> <li>④のと里山海道沿いに刈谷ハイウェイオアシスのような施設を設置すれば、無料化による金沢から奥能登への直行を防ぐことができる。</li> <li>⑤石川県農業短期大学附属経営農場跡地にアンデルセン公園のような施設を設置すれば、遊休地となった土地の有効活用ができる。</li> <li>⑥当該施設による雇用が見込まれる。</li> </ul>
	子育て支援の拡充	若い世代の収入が少ないため、結婚、出産、子育てに消極的だということが大きな問題となっている。所得が増えれば良いが簡単にはいかないため、他地域がしている支援をすべきだが、並大抵な金額では無く、一段大きな金額の支援を行うべき。
	近所で見守る子育ての仕組みづくり	近所で見守る子育ての仕組みを整えることで、高齢者の生きがいにもつながる。
	出会いサポート事業	男女の出会いをサポートし、出会いの機会を設ける「縁結びサークル」を支援し、未婚の解消、定住促進につなげる。
	いのちの誕生支援事業	少子化対策の一環として、不妊治療を受けている世帯に助成する。（不妊治療費助成額の増額）
	子育て世代住宅取得支援	転入により、住宅を取得する人の負担を軽減するため、費用の一部を補助し、定住者の増加を図る。
	学校教育の充実	学校教育を全国レベル（学問やスポーツ等）に引き上げるよう環境を整え、本町の学校に通わせたいと思ってもらえるようにする。
	宅地開発と合わせた公園整備	休日に一日ゆっくりと子どもを連れて遊べる場所、近所で夕方の少しの時間でも遊べる集落の集会所等に遊具を設置する、利用しやすい児童館等を整備し、子育てしやすい環境作りを整える。
	子育て手当の支給	専業主婦等、仕事をせずに家庭で子育てをする、3歳未満児がいる家庭に子育て手当を支給する。

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	産後家庭への支援	生後1か月程度の間、上の子の世話や家事など手伝いをする方に家庭まで出向いてもらい、支援を行う。
	各種祝金の支給	結婚し町内に在住する方へ祝金を支給する。
		町内で出産・子育てする方に6歳まで誕生日ごとに祝金を支給する。
	結婚生活全般を支援する組織の創設	<p>出会いから結婚、出産、子育てに至る、全ての事柄に対して一元的に対応する組織を創設する。</p> <p>【具体的な事業例】</p> <p>(1) 婚活イベントのコーディネート（宝達山を活用したアウトドアイベント等）</p> <p>(2) 新婚夫婦と未婚の友人間での婚活パーティ等の斡旋</p> <p>(3) 新米ママさん、パパさん及び赤ちゃんとの交流会（子育ての実体験）</p> <p>(4) 子育て（幼・小・中・高・大）の体験談を聞く催し</p> <p>(5) 世代間交流（父・子・孫）による結婚観の醸成</p> <p>(6) 転入者や一時的な別居を希望する新婚夫婦等からの雇用や住居に関する相談窓口創設</p> <p>実施した事業については、参加者の同意を得たうえで、乾燥も含めた情報をメディア等で情報発信することにより、宝達志水町のアピールを行う。</p>
	住宅資金への支援	結婚後に住まわせることが大事なので、住宅資金に手厚い補助を行う。
	出産子育て支援	地元商店や飲食業とタイアップし、出産・子育て等の特典を与える。
	小学校・保育施設の統合周知	小学校・保育施設の統合は、子育て世代にとって不安材料であり、他市町から見てもネガティブなイメージを増幅するため、統合の是非や統合の結果どうなるのかという計画を早めに地域に伝達することが必要。
	TV番組への応募による婚活推進	独身男性が増えていると思うが、結婚しないことには子供も増えないため、婚活に力を入れる。TV番組「ナイナイアンサーのお見合い企画」に応募する等。
	子供の人数別による支援	子供は2人育てるのも3人育てるのも一緒という人がいるが、実際は1人多いだけでも全然違うため、子供の人数によって、優遇や特典を与える。

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	安心安全な食の確保	学校給食を自然栽培で提供することで、農業者の所得確保につながるとともに、子供の職に関心が高い人の移住につなげる。
	プレミアムパスポート事業の改善	未婚者が多い中、子供を3人目まで持つことを考えにくいいため、プレミアムパスポートは2人目の子供から対象とする。
	出産経験者の意見を取り入れた助成制度	本町の助成制度は他市町より対応が遅く、内容もそそられないため、出産経験者の意見を聞いて助成する。（1歳おめでとう祝金、入学おめでとう祝金、育児をする家族に対しての助成、定住バックアップ制度、出産時育児一時金等）
	TV番組への応募による婚活推進	TV番組「ナインイアンサーのお見合い企画」に応募し、「限界集落にお嫁に来ませんか？」と題するなど、現状を隠さずオープンにしてメディアを味方にし、出会いの場を提供するとともに町をPRする。
	不要土地の無償譲渡	余っている不要な土地を、若者や事業者に売のではなく、無償で譲渡することで、人口増を図る。（さらに家も）
	保育施設の充実度を全国にPR	本町の保育施設については、待機児童も少なく低料金、さらに2人目無料や、日曜保育等、預けやすい環境であるため、メディアを使って広めることで住みたいと思えるようPRする。
	介護施設の充実度を全国にPR	介護施設も十分すぎるほどあるため、老後も安心して住めるということをPRする。
	子育て世代への支援	子育て世代への経済的支援や休みやすい勤務体制、特別休暇等、職場への周知活動に努める。
	小児科の設置	町内に小児科が必要。
	公園整備	町の真ん中に遊具が充実した大きい公園（雨が降れば室内でもあそべるような小さな施設が併設）があれば遊び場に困らない。
人が集まる機会の創出	合併10周年記念町民総踊りのようなイベントを毎年行い、町民が当たり前のように参加することで、それに合わせて帰省する人が増え、その場で出会いが生まれ結婚につながる。	

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	子育てにかかる経済的負担を軽減する	ベビーベッド、チャイルドシートなどのベビー用品や、衣類、自転車等を譲り合えるようなネットワークを作り、無償や格安で譲ってもらえるにし、子育てにかかる経済的負担を軽減する。
	子育て後の雇用の場を確保	子供が小さいうちは短時間勤務、大きくなったらフルタイムで働ける環境を整える。
	町内企業の連携による出会いの場の創出	町内の企業間が連携し、独身男女の出会いの場を作る。

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	大規模放牧場の整備	宝達山裾野の旧農業短大農場に、大規模な能登牛の放牧場を計画して、誰もが楽しめる遊園地も併設する。
	地域交流の活性化	集落センターを拠点に公民館活動や、高齢社会の社会福祉活動を活発に行い、集落の交流を深める。
	宝達山サミットの開催	宝達山サミット（宝達志水町、氷見市、羽咋市、かほく市、津幡町）を開催し、交流を図る。
	特色ある医療施設の構築	建て替えの決まった新志雄病院の名称を公募とし、病院機能だけに終わらず、付属の施設を計画して、入院している人、家族、外来者、職員、町民がゆっくりくつろげるコミュニティ空間など、他にない特色のある医療施設を構築する。
	全町民への周知	雇用の問題を始めとした事項を、全町民に周知し、合併当時の出生率約100名を達成させる方策を検討する。
	コンパクトなまちづくり	「全国住みやすさランキング」第9位のかほく市を参考とした、「かほく市のミニ版」として、約1万人規模のコンパクトなまちづくりを目指す。
	防災意識の醸成	過去に地震等の被害がほとんどなく災害に強い安心で安全な町を好材料として発信するとともに、防災士を多数養成し、各地区でも防災・災害訓練・特性に応じた防災マップの作成等、日頃から防災意識を高める。
	地域間連携の推進	隣接の羽咋市、かほく市、あるいは志賀町、中能登町、氷見市等と雇用面、物流、人的交流、文化的交流等、今まで以上に積極的に推進する。特に羽咋市とは将来、合併問題が再浮上することもひめているため、より一層連携を図る。
	G I A H S 世界農業遺産「能登の里山里海」の更なる活用と連携	<p>オムライスの郷構想における地産地消の運動を世界農業遺産の国際的なネットワークでさらにPRする。日本のG I A H S ネットワークは、今秋ミラノ万博に出展するなど、国際見本市への参加に積極的であるため、本町も「オムライス」や「宝達くず」、「いちじくジャム」などをG I A H S ネットワークを通じて売り込む工夫をする。</p> <p><b>効果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①世界農業遺産はG I A H S サイト同市の連携の場であるため、これを活用する。</li> <li>②出品により、他G I A H S サイトとのコラボレーションのアイデアがわく。</li> <li>③こうした取り組みにより、新規就農者への何よりの励み、動機づけとなる。</li> </ul>

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する	属する圏域の明確化	<p>宝達志水町は、能登地域に属し、観光施策は七尾市を中心とする圏域により分類され施策を行っている一方、経済産業省による経済圏の分類では金沢圏に入っており、また、羽咋市、志賀町と、羽咋郡市広域圏事務組合を設置している。目的、種類によって見解が異なるのは仕方ないが、どの圏域に属するかを出来る限り明確にする。</p> <p><b>効果</b> ①可能な限り明確化することで、民間主体の連携が生まれやすくなる。  ②目的・種類ごとに圏域が異なっても、整理することで様々な動きがスムーズに展開できる。  ③金沢と能登の連携役として、宝達志水町にしかできない役割が生まれる可能性がある。</p>
	各地域における見守り隊組織の整備	<p>各地域に見守り隊のような組織をつくり、それぞれの地域内での交流を活発化させるとともに、地域交流会を年1、2回開いて連携意識を持つような仕掛けをつくる。また、参観地域を支援するような地域連携も検討する。</p>
	地域医療の維持・強化	<p>利用者ニーズに対応できる医療環境の充実を図るとともに、子育て世代が安心して子供を生み、育てられるよう、休日急患医療体制の維持・強化を図り、併せて医師確保に向けた取り組みを積極的に進める。</p>
	移住者意見による分析	<p>Uターン、Iターンの人たちの意見を参考に、外から見た本町の良いところ、悪いところを細かく分析して、魅力あるまちづくりを構築する。</p>
	隣接地域と連携した防災訓練の実施	<p>地域消防団の交流を促進し、沈設地域と連携した防災訓練を行う。</p>
	集落間におけるマッチング事業	<p>少子高齢化により急速に高齢化が進む山間部の集落では、集落内の環境整備や行事の開催すらままならない状況であるため、集落間の交流を中心に、町内外問わず、オープンな交流を深める。例えば、高齢化が進展する中山間集落と比較的年齢層が低い平野部・海岸部集落、退職後間もない元気な高齢者、集落を離れ都市部で生活している元住民、県内外の農村ボランティア等をマッチングし、四季を通じて世代間交流を深める中で、地域間の連携を測れば、町への愛着を更に深めてもらえ、その輪を更に広げることで町全体の活性化につながる。</p> <p><b>【具体的な事業例】</b>  (1) 道路愛護や河川愛護等の環境整備への応援派遣  (2) 休耕田を活用した農業体験  (3) 祭礼体験（又は祭礼復活）  (4) 農作物、山菜、きのこ等の収穫体験  (5) 空き家を活用した合宿や民博  (6) 地理的な状況等を普段から把握することにより災害時に的確な応援が可能 等</p>

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する	伝統文化の継承	生涯学習や祭礼等の独自文化を大切にして、魅力あるまちづくりを目指す。
	健康づくりの推進	志雄病院を充実させ、地域の健康推進と長生きできる町になるようにする。
	新しいコミュニティの創生	人口減のため限界となっている（子供会行事の維持、高齢者の地区祭礼への参加困難）コミュニティがあるため、区割りを見直すなど、過去にとらわれない地区祭礼や地域コミュニティを創生する。
	施策の集中的な投資	各小学校の入学児童数を見ても人口が極端に少ない地区とそうでない地区がはっきり別れている。現在人口が少ない地区への定住の為の施策は困難であるため、コミュニティバスやデマンドタクシーなどを手厚くする、空き家を紹介する等の条件により、まだ間に合う地区への集中的な投資を行うことが重要。
	隣接市との連携強化	隣接する羽咋市の「自然栽培ブーム」を活かし、JAはくい、羽咋市との連携強化を図る。（自然栽培推進の委員会設立等）
	エコタウン構想の推進	イギリスではじまったピークオイルと気候変動という危機を受け、市民の相違と工夫および地域の資源を最大限に活用しながら脱石油型社会へ移行していくための草の根運動（太陽光発電、木質エネルギー、小水力発電等のエネルギーの地産地消）を実施し、エコビレッジやトラジションタウン的なまちづくりを推進する。
	若年層の意見を積極的に取り入れる	これからのまちづくりのために、若者の意見を積極的に取り入れるべきであり、SNS等を活用し、多くの若者からの意見を取り入れる機会を設ける。
	超高齢化社会への対策	超高齢化社会に向けて、お金をかけずに高齢者福祉を充実させる仕組みづくりを早急に作っていくべき。
	町民への周知	現状を隠さずに伝え、合併10年経過し、補助金等も削減していくなか、10年後、20年後にはいくらの町民税を支払うのか、限界集落に対して、どのように危機感をかんじればよいかなど、町民個々に危機感を持ってもらい、宝達志水町に対して真剣に考える場を提供する。
	万雑の廃止	住民税、固定資産税、万雑等、住むだけで経済的負担が大きいいため、負担を小さくすることで住みよいまちを目指す。

基本目標	項目（基本施策）	提案内容（施策詳細）
時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する	安全安心な町であることをPR	自然災害が少ないことをPRし、企業誘致につなげる。
	困りごと対応に対する仕組みづくり	高齢者、障害者だけでなく、子育て中のママなどのちょっとした困りごとに近所の方が対応できるような仕組みを作る（ニーズ把握やボランティア派遣などをする人の配置等）。
	地域住民の交流の場の創出	現在、町内に気軽に集える場所が少ないため、住民同士の交流も少なくなっていると考えられるため、住民主体で会館や空き家などを利用した集える場所を設置するところには助成金を出す。
	各地区公民館の有効活用	<p>各地区にある公民館を、もっと気軽に利用することで、地域の中で世代間の交流が生まれ、知り合いが増えることにより、安全、安心な暮らしを確保するとともに地域に愛着を持てる子供たちを育てる。</p> <p>【例】</p> <p>(1) 日中は、地域のお年寄り、主婦が集まる場として活用する（クールシェア、ウォームシェア、近所同士の交流が生まれる、住民を孤立させない）。</p> <p>(2) 放課後は、子供たちが集まる場として活用する（安心して遊ばせられる場の確保、地域の大人が宿題を見てあげたり、悩みを聞いてあげることが出来る）。</p>